

平成24年3月
福井市（福井県）

・平成23年度フォローアップ結果のポイント

○計画期間；平成19年11月～平成25年3月（5年5月）

1. 概況

中心市街地の活性化に向けて、平成23年度は、さくらの小径・浜町通り界限整備事業による通りの修景整備、公共下水道事業合流地区改善事業による排水システムの整備などが完了し、安心して来街・居住できる環境が整えられた。また、平成22年度から福井駅西口暫定広場等アクティブスペースで開催している「フクイ夢アート」は、参加者延べ人数が平成22年度の25千人から平成23年度には35千人に増加しており、より多くの市民を巻き込んだ事業展開を図ることとなっている。

目標指標である公共交通機関乗車数（鉄道1日平均）については、平成21年のJRの減便や高速道路における上限料金制（休日1,000円）などの影響がそのまま続き、前年とほぼ同じ値となった。

居住人口については、平成22年度末に完了した優良建築物等整備事業（大手2丁目地区）など共同住宅への居住により基本計画策定後初めて増加したが、依然として目標値から大きく離れている。

歩行者・自転車通行量（休日）については、平成22年から大幅に減少した。これは、百貨店のセール前と調査日が重なり、買い控えが影響したものと考えられる。10月の調査では前年とほぼ同じ値（44,796人）となった。

今後の見通しとしては、北陸新幹線が敦賀まで認可され、停滞していた福井駅付近連続立体交差事業や福井駅周辺土地地区画整理事業など関連する事業の進展が期待される。

なお、平成23年度末時点で基本計画に掲げた全76事業のうち、26事業が完了し、ソフト事業など39事業が実施中、11事業が未実施となっている。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値 (H18)	目標値 (H24)	最新値	前回の 見通し	今回の 見通し
I 訪れやすい環境をつくる	公共交通機関乗車数 (鉄道1日平均)	13,592人 ／日	15,300人 ／日	13,550人 ／日(H22)	③	④
II 居住する人を増やす	居住人口	4,474人	5,200人	4,281人 (H23)	④	④
III 歩いてみたくなる魅力を高める	歩行者・自転車通行量 (休日)	43,440人 ／日	52,500人 ／日	37,516人 ／日(H23)	③	③

注) 取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

1) 公共交通機関乗車数（鉄道 1 日平均）について

公共交通機関乗車数（鉄道 1 日平均）については、基準値と比べて 42 人/日減少、前年度からは 3 人/日増加している（P4 参照）。

全体の 7 割以上を占める JR の乗車数は、平成 21 年のダイヤ改正による運行本数の減便や高速道路割引制度の影響が続き減少傾向となっている。

また、数値目標の根拠となっている A O S S A の入館者数は、前年度（H21 年度）と比べ約 8 万人減少し 161 万人余りとなり、開館当時（H19 年度）と比べると約 36 万人少なくなっているため、鉄道利用者の増加は当初の見込みより少なくなっている。

このほか、福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業やえちぜん鉄道の L R T 化など、事業計画の見直し等により実施時期が遅れており、計画期間内での完成が難しいため、目標達成は困難と見込まれる。

2) 居住人口について

居住人口については、基準値と比べて 193 人減少、前年からは 122 人増加している（P7 参照）。

本年は社会増が自然減を上回り、初めて居住人口が増加したものの、主要な事業のひとつに位置づけられている福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業の実施時期の遅れが目標達成に深刻な影響を与えている。

また、新規の集合住宅建設の予定が無く、高齢者の割合が高いという中心市街地の人口構成を考慮すると、今後は自然減が社会増を上回ると予想され、目標達成は困難と見込まれる。

3) 歩行者・自転車通行量（休日）について

歩行者・自転車通行量（休日）については、基準値と比べて 5,924 人/日減少、前年からは 7,292 人/日減少している（P10 参照）。これは、百貨店のセール前と調査日が重なり、買い控えが影響したものと考えられ、平成 23 年 10 月の調査では、前年に比べ 900 人/日増加している。

また、各種事業の進展もあり、平成 23 年 9 月には区域内に大手専門学校が開校するなど、新たな民間開発の動きも見られる。こうした民間開発に対応して「食とアートでまちなか文化発信事業」などのソフト事業を効果的に展開することで目標達成は可能と見込まれる。

4. 前回フォローアップと見通しが変わった場合の理由

基本計画において中心的な事業である「福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業」や「えちぜん鉄道三国芦原線の L R T 化」が遅れており、これらに関連する「福井駅周辺土地区画整理事業」や「バスロケーションシステムの導入」など他の事業も完了が遅れているため、基本計画の進捗に支障が生じていると判断し、見通しを変更したものである。

5. 今後の対策

基本計画に掲げる主要な事業である福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業やえちぜん鉄道三国芦原線のLRT化などの推進に重点を置いて取り組むとともに、各目標の達成をサポートする事業を実施する。

1) 公共交通機関乗車数（鉄道1日平均）について

郊外居住者における鉄道の利用促進を図るため、地域コミュニティバスの運行支援やパークアンドライド等の促進により、中心市街地に訪れやすい環境を整えていく。

また、企業や学校を対象としてモビリティマネジメントの普及・推進を図り、公共交通利用への意識変化を促す。

2) 居住人口について

「まちなか住まい支援事業」の二世帯型戸建て住宅の建設補助や、戸建て住宅・共同住宅のリフォーム補助の活用を促し、良質な住宅供給を支援する。

また、“まちなか居住を楽しむ二世帯が暮らす家”をテーマに、「まちなか住まい設計コンペ」を開催し、この提案を広く市民に公表することにより居住ニーズを喚起し、まちなかの人口増加につなげていく。

3) 歩行者・自転車通行量（休日）について

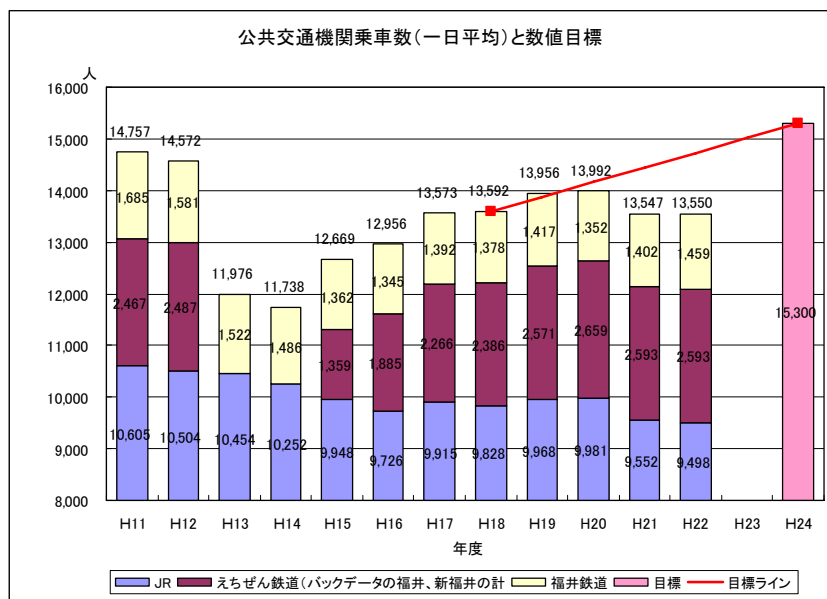
基本計画において、歩行者動線軸上に位置づけられている「駅前電車通り」の賑わいと魅力の向上を図るため、「中心市街地商業コーディネート事業」を拡充することで空き店舗対策を強化する。

また、新たに来街するようになった専門学生などの動態を分析し、これまでのソフト事業の充実や学生を取り込んだイベントの実施により、歩行者・自転車通行量の増加を図る。

・目標毎のフォローアップ結果 目標「訪れやすい環境をつくる」

「公共交通機関乗車数」 目標設定の考え方基本計画 P37～P40 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H18	13,592 (基準年値)
H19	13,956
H20	13,992
H21	13,547
H22	13,550
H23	
H24	15,300 (目標値)

調査方法；中心市街地内に乗入れている各交通機関の公表データ集計

調査月；3月

調査主体；西日本旅客鉄道株式会社、えちぜん鉄道株式会社、福井鉄道株式会社

調査対象；JR（福井駅）・えちぜん鉄道（福井駅、新福井駅）・福井鉄道（市内路面区間）乗車数

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・えちぜん鉄道新駅整備事業（えちぜん鉄道株）

事業完了時期	【済】H19年8月
事業概要	えちぜん鉄道三国芦原線の福大前西福井 - 新田塚駅間に、新駅2箇所を整備（ハツ島駅、日華化学前駅）
事業効果又は進捗状況	認定時の乗車数見込み：100人/日 2駅の乗車数は234人/日（H22年度）であり、当初の見込み323人/日より89人/日少ない。これに認定時の来街確率（29.8%）を乗じると、乗車数は69人/日となり、福井駅・新福井駅利用者は当初の見込みより31人/日少ない。

・えちぜん鉄道三国芦原線のLRT化（公共交通事業者、福井県、福井市）

事業完了時期	【未】H24年度
事業概要	えちぜん鉄道三国芦原線を福井鉄道の路面軌道区間へ乗り入れLRT化する。また、福井鉄道をえちぜん鉄道三国芦原線へ乗り入れ、相互直通運行とする。そのために必要な交通結節機能の強化を図るため周辺整備を行う。
事業効果又は進捗状況	認定時の乗車数見込み：420人/日（内訳：えちぜん鉄道福井駅、新福井駅の見込み乗車数：210人/日、福井鉄道市内路面区間の見込み乗車数：210人/日） H20年度に福井市都市交通戦略を策定し、LRT化や交通結節機能の強化などの施策を位置づけた。しかしながら、えちぜん鉄道三国芦原線については、東側単独高架で、福井駅に結節することになった。このため、えちぜん鉄道三国芦原線のLRT化については、関係者間で再検証を行っていく。

・福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業
（福井駅西口中央地区市街地再開発準備組合）

事業完了時期	【未】H24年度
事業概要	周辺地区との連携機能、駅前広場の補完機能、まちなか居住機能等の整備を市街地再開発事業で行う。
事業効果又は進捗状況	認定時の乗車数見込み：410人/日 NHKの事業参画が困難になったことから事業の再構築を行い、公共公益・商業施設、共同住宅及び屋根付き広場等からなる再開発計画をとりまとめ、再開発組合の設立認可申請を行った。

・福井駅高架下利用促進事業（福井市）

事業完了時期	【済】H21年11月
事業概要	高架下を利用して商業拠点を整備する。
事業効果又は進捗状況	認定時の乗車数見込み：40人/日 現時点では商業施設を整備しても事業が成り立たないので、H13年度に策定した当初の高架下利用計画にある駐車場として暫定的に整備した。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

目標達成の見通し

全体の7割以上を占めるJRの乗車数は、平成21年のダイヤ改正による運行本数の減便や高速道路割引制度の影響が続き減少傾向となっている。

また、数値目標の根拠となっているAOSSAの入館者数は、前年度（H21年度）と比べ約8万人減少し161万人余りとなり、開館当時（H19年度）と比べると約36万人少なくなっているため、鉄道利用者の増加は当初の見込みより少なくなっている。

このほか、福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業やえちぜん鉄道のLRT化など主要な事業の実施時期が遅れており、計画期間内での完成が難しいため、目標達成は困難と見込まれる。

今後の対策

福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業については、再開発組合を中心に、実施設計及び権利変換計画の作成にあたって、地権者、保留床取得予定者、及び事業協力者等と調整していく。えちぜん鉄道三国芦原線については、東側単独高架で、福井駅に結節することになった。このため、えちぜん鉄道三国芦原線のLRT化については、関係者間で再検証を行っていく。

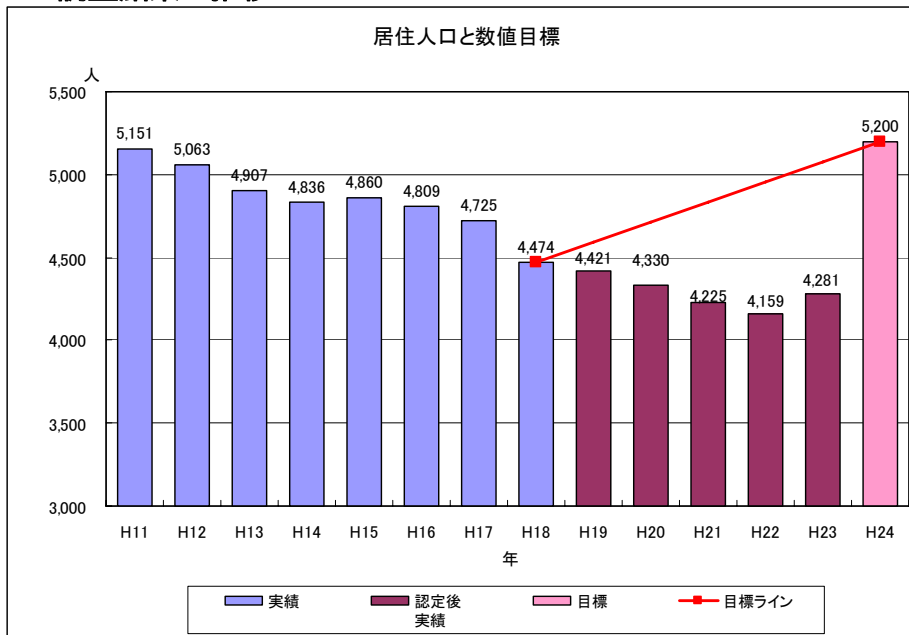
また、買い物や通院など非日常的な鉄道利用や、郊外居住者の鉄道利用を促すため、地域コミュニティバスの運行支援やパークアンドライド等の促進により、中心市街地に訪れやすい環境を整えていく。

さらに、鉄道沿線の企業を中心としてモビリティマネジメントの推進を図り、交通アクセスの検討に助言を行うコンサルタントを派遣するなど、車から公共交通への利用転換を促す働き掛けを強化する。

目標「居住する人を増やす」

「居住人口」 目標設定の考え方基本計画 P41～P42 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H18	4,474 (基準年値)
H19	4,421
H20	4,330
H21	4,225
H22	4,159
H23	4,281
H24	5,200 (目標値)

調査方法；中心市街地区域内の住民基本台帳登録人口

調査月；10月1日

調査主体；福井市

調査対象；中心市街地区域内の居住者

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業【再掲】P5 参照

事業完了時期	【未】H24 年度
事業概要	P5 参照
事業効果又は進捗状況	認定時の住宅戸数見込み：130 戸 NHKの事業参画が困難になったことから事業の再構築を行い、公共公益・商業施設、共同住宅及び屋根付き広場等からなる再開発計画をとりまとめ、再開発組合の設立認可申請を行った。

・中央1丁目（駅前南通り）地区優良建築物等整備事業（合同開発株）

事業完了時期	【済】H22 年 1 月
事業概要	延床面積：約 10,000 m ² 、構造・階数：SRC 造・地上 14 階、居住施設、商業施設、駐車場
事業効果又は進捗状況	認定時の住宅戸数見込み：69 戸 施設建築物の工事が完了し、75 戸の住宅が供給された。

・中央3丁目地区優良建築物等整備事業（日本システムバンク株）

事業完了時期	【済】H21年12月
事業概要	延床面積：約4,000㎡、構造・階数：SRC造・地下1階地上12階、居住施設、コミュニティルーム、駐車場
事業効果又は進捗状況	認定時の住宅戸数見込み：30戸 施設建築物の工事が完了し、33戸の住宅が供給された。

・ウララまちなか住まい事業（福井市）

事業完了時期	【済】H21年3月
事業概要	都心居住推進区域内【中心市街地の区域（105ha）及び市街地中心部（630ha）】での良質な住宅の供給を支援する（共同住宅建設補助、共同住宅リフォーム補助、戸建て住宅補助、若年・子育て世帯定住支援）
事業効果又は進捗状況	認定時の住宅戸数見込み：22戸 ウララまちなか住まい支援事業が完了し、53戸に対して補助を行った。

・大手2丁目地区優良建築物等整備事業（大和ハウス工業株）

事業完了時期	【済】H23年3月
事業概要	延床面積：約11,000㎡、構造・階数：RC造・地上14階、居住施設、診療所、駐車場
事業効果又は進捗状況	認定時の住宅戸数見込み：85戸 施設建築物の工事が完了し、87戸の住宅が供給された。

・城の橋通り地区優良建築物等整備事業（合同開発株）

事業完了時期	【未】H24年度
事業概要	延床面積：約4,000㎡、構造・階数：SRC造・地上10階、居住施設、店舗、事務所、駐車場
事業効果又は進捗状況	施行者代表である民間事業者が、平成24年2月に自己破産し施設建設の見通しが立たないことから、事業の実施が遅れている。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

目標達成の見通し

主要な事業のひとつに位置づけられている福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業の整備の遅れは、目標達成に深刻な影響を与えている。

中心市街地区域内ではこれまで、250戸（中央2丁目：62戸、中央1丁目地区：75戸、中央3丁目地区：33戸、大手2丁目地区：87戸など）を超える分譲住宅が供給された。（うち優良建築物等整備事業による供給は、中央1丁目地区・中央3丁目地区・大手2丁目地区分の195戸）

この結果、平成23年の居住人口は増加したものの、新たなマンション等の建設は見込まれず、高齢者の割合が高いという人口構成を考慮すると、社会増を上回る自然減が予想されるため、目標達成は困難と見込まれる。

今後の対策

引き続き、福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業の推進に取り組む。

また、優良建築物等整備事業による分譲共同住宅の整備のうち、自己破産による未実施事業に関して、現段階で方向性は定まっていない。

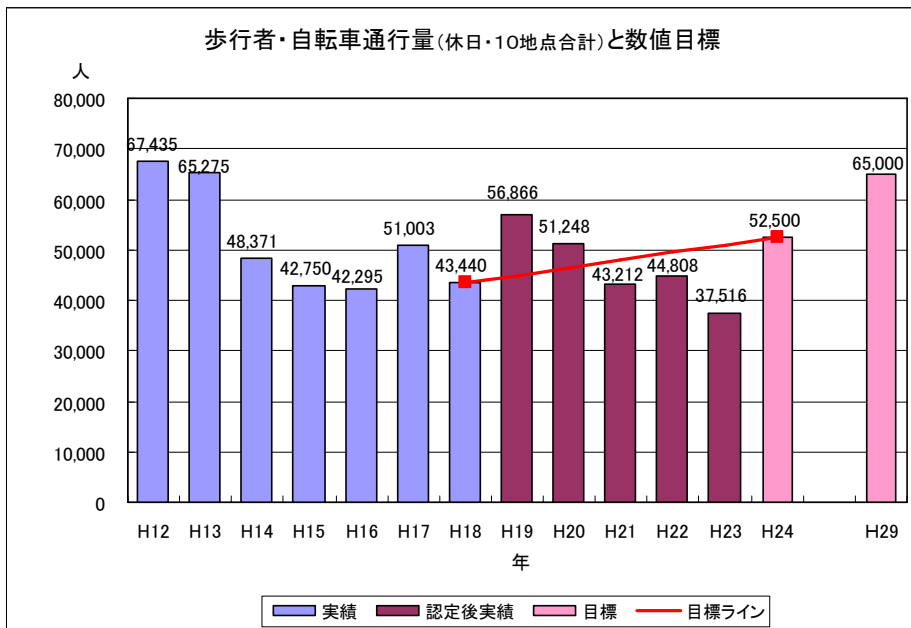
今後は三世代同居率が高いという地域の特性に合わせ、二世帯型戸建て住宅の建設補助などの制度運用において弾力化を図り、活用の幅を広げていく。

このほか、“まちなか居住を楽しむ二世帯が暮らす家”をテーマに、「まちなか住まい設計コンペ」を開催し、この提案を広く市民に公表することにより居住ニーズを喚起し、まちなかの人口増加につなげていくなど、充実した暮らしがあることをアピールする取り組みを継続していく。

目標「歩いてみたくなる魅力を高める」

「歩行者・自転車通行量」 目標設定の考え方基本計画 P43～P46 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H18	43,440 (基準年値)
H19	56,866
H20	51,248
H21	43,212
H22	44,808
H23	37,516
H24	52,500 (目標値)

調査方法；歩行者・自転車通行量調査

調査月；7月実施

調査主体；まちづくり福井(株)

調査対象；歩行者及び自転車通行者、休日10地点

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

・福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業【再掲】P5 参照

事業完了時期	【未】H24 年度
事業概要	P5 参照
事業効果又は進捗状況	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：2,710 人/日 NHKの事業参画が困難になったことから事業の再構築を行い、公共公益・商業施設、共同住宅及び屋根付き広場等からなる再開発計画をとりまとめ、再開発組合の設立認可申請を行った。

・福井駅高架下利用促進事業【再掲】P5 参照

事業完了時期	【済】H21 年 11 月
事業概要	P5 参照
事業効果又は進捗状況	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：390 人/日 現時点では商業施設を整備しても事業が成り立たないので、H13 年度に策定した当初の高架下利用計画にある駐車場として暫定的に整備した。

・公共交通機関に対する取組による来街者増加の見込み

1) えちぜん鉄道新駅整備事業【再掲】P4 参照

事業完了時期	【済】H19年8月
事業概要	P4参照
事業効果又は進捗状況	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：400人/日 2駅による中心市街地来街者数は63人/日であることから、歩行者・自転車通行量は252人/日となり、当初の見込みより148人/日少ない。

2) えちぜん鉄道三国芦原線のLRT化【再掲】P5参照

事業完了時期	【未】H24年度
事業概要	P5参照
事業効果又は進捗状況	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：1,680人/日 H20年度に福井市都市交通戦略を策定し、LRT化や交通結節機能の強化などの施策を位置づけた。しかしながら、えちぜん鉄道三国芦原線については、東側単独高架で、福井駅に結節することになった。このため、えちぜん鉄道三国芦原線のLRT化については、関係者間で再検証を行っていく。

・居住者増分

1) 福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業【再掲】P5参照

事業完了時期	【未】H24年度
事業概要	P5参照
事業効果又は進捗状況	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：490人/日 NHKの事業参画が困難になったことから事業の再構築を行い、公共公益・商業施設、共同住宅及び屋根付き広場等からなる再開発計画をとりまとめ、再開発組合の設立認可申請を行った。

2) 中央1丁目(駅前南通り)地区優良建築物等整備事業【再掲】P7参照

事業完了時期	【済】H22年1月
事業概要	P8参照
事業効果又は進捗状況	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：260人/日 施設建築物の工事が完了して75戸の住宅が供給され、歩行者・自転車通行量は165人/日となり、当初の見込みより95人/日少ない。

3) 中央3丁目地区優良建築物等整備事業【再掲】P8 参照

事業完了時期	【済】H21年12月
事業概要	P9参照
事業効果又は進捗状況	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：110人/日 施設建築物の工事が完了して33戸の住宅が供給され、歩行者・自転車通行量は <u>64人/日</u> となり、当初の見込みより46人/日少ない。

4) ウララまちなか住まい事業【再掲】P8 参照

事業完了時期	【済】H21年3月
事業概要	P9参照
事業効果又は進捗状況	認定時の歩行者・自転車通行量見込み：60人/日 優良建築物等整備事業を除く物件について、53戸に対して補助を行なったので、歩行者・自転車通行量は <u>133人/日</u> となり、当初の見込みより73人/日多い。

5) 大手2丁目地区優良建築物等整備事業【再掲】P8 参照

事業完了時期	【済】H23年3月
事業概要	P9参照
事業効果又は進捗状況	施設建築物の工事が完了して87戸の住宅が供給され、歩行者・自転車通行量は <u>160人/日</u> となった。

6) 城の橋通り地区優良建築物等整備事業【再掲】P8 参照

事業完了時期	【未】H24年度
事業概要	P9参照
事業効果又は進捗状況	施行者代表である民間事業者が自己破産し施設建設の見通しが立たないことから、事業の実施が遅れている。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

目標達成の見通し

目標値の根拠とした主要事業のひとつに位置づけられている福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業は整備が遅れており、居住者増加に伴う来街者の増加効果は発現していない。

しかし、平成23年度は、前年度末に大手2丁目地区の優良建築物等整備事業が完了し居住者の増加が見られた。このほか「フクイ夢アート」や「野外映画上映会」といったイベントの継続的な実施をはじめ、これまで郊外で行われていた参加・体験型のイベントなどを中心市街地で開催することで来街機会の増加を図ってきた。

このような中で、平成23年9月に中心市街地域内に専門学校が開校し、若者の中心市街地への来街機会が新たにつくられたことにより、来街者数の増加が見込まれており、目標達成は可能と見込まれる。

今後の対策

引き続き、福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業やえちぜん鉄道三国芦原線のLRT化など基本計画に掲げる主要な事業の推進に努める。

また、基本計画において、歩行者動線軸上に位置づけられている「駅前電車通り」では、近年大型空き店舗が増えていることから「中心市街地商業コーディネート事業」を見直し、当エリアの空き店舗（25坪以上）での開業にあたり、改装経費の上限を拡大したメニューを加えることによって、集客効果の高い優良店舗の開業を促す。

このほか、大手専門学校の開校により若者が日常的に来街するようになったため、これまでのソフト事業の充実や学生を取り込んだイベントの実施により中心市街地の魅力を高め、歩行者・自転車通行量の増加を図る。